

活動分野	森の保育		
タイトル	自然公園で冬の遊び		
実施日時	平成26年1月8日（水）9時30分 ～ 11時00分		
実施場所	野田市 三ツ堀里山自然園		
受講者	33名 園児29名 先生2名	F I C会員	2名

活動の内容 氷遊び、紙トンボ、枯葉のフクロウづくり・・・担当 國安・金田

今年初めての開催、予報では午後から雨とのことで開催も危ぶまれたが、午前中は昨日とは異なり冷え込みもさほどなく、やわらかな日差しが降り注ぐ絶好の活動日和である。

「今年は春から縁起がいいわい」午年だけに何事もうまく行くでしょう。

早目に着き下見で冬の風物詩池の氷結を確認する・・・この氷結が本日の主要テーマの一つ園児が到着して挨拶の後、「天つくグルコサミン体操」の準備運動を行う。

1. 行うなら今でしょう

下見で池の氷結を見てこの時期にしか出来ない氷遊びを相談の上「行うなら今でしょう」と即決、約12～13ミリある氷を池の淵で割り、これを園児たちの前に運び「バシャ」と落とし割って氷上に投げる小石代わりとするが、この瞬間も園児たちは歓声を上げて大喜び。しかし池の淵で手を伸ばして取る氷の重いこと、すぐに「もっと大きいの」と矢継ぎ早の催促、そのうち手はかじかんでくるはで、思いのほか重労働でした。

2. 園児たちの今年の飛躍を願って天高く

氷遊びは一班のスペースしかないため、もう一班は前の原っぱで用意した紙トンボで遊ぶという2シフト制で行う。器用に高く飛ばす子、一方トンボよりモグラの家さがしに興じる子、様々である。

3. 今年も福（フクロウ）が来ますように

森の散策途中に拾ったコナラの枯葉でフクロウ作りを行う。サンプルを見せて作り方を説明すると、大半の園児は何とか個性豊かに作り上げた。器用な年長組の子が、出来ない子に教えている光景はこの1年の成長の証か・・・あと3か月足らずでピッカピッカの1年生だもの

